

「ココが知りたい」。国際協力に関係する
いろんなトピックを分かりやすく解説します!

10 月9日から11日まで、熊本市
と水俣市で「水銀に関する水
俣条約」外交会議が開催され、約1
40カ国から1000人以上が出席。
92カ国が同条約に署名した。
高度経済成長期の日本で、水俣病
の原因となった水銀。深刻な被害を
経験した日本の責務として、そこで
得た教訓を世界各国と共有するため
の努力が続いてきた。
21世紀に入り国際社会も連環環
計画（UNEP）を中心に取り組み

を進めてきたことで水銀の毒性とリ
スクに関する認識が高まり、今回の
条約採択に至った。水銀が人の健康
や環境に与えるリスクを低減するた
め、一次採掘の禁止、貿易、水銀添
加製品や製造工程、大気への排出
水銀廃棄物などに対する包括的な規
制が盛り込まれた。化学物質に関す
る条約の中でも、1つの物質のみを
取りあげ、その採掘から廃棄までを
規制するものは水銀条約が初めて。
50カ国・地域が締結した90日後に発
効する。
著しい経済成長を遂げる開発途上
国にとって、公害は他人事ではない。
すでに日本は工業化の推進と並行し
て環境分野での協力を強化してお
り、ベトナムのホーチミン市では下

水・配水システムの整備を通じて水
環境の改善を目指している他、セル
ビアでは大気汚染の改善に向け、火
力発電所に排煙脱硫装置を設置する
事業を始めている。
こうした流れの中で、会議に出席
した岸田文雄外務大臣は、途上国の
大気汚染、水質汚濁への対策、廃棄
物処理のため、今後3年間で総額20
億ドルの支援を行うことを表明。さ
らに、途上国での水銀条約の締結を
推進すべく、水銀汚染防止の知識や
技術を持つ人材育成支援も新たに実
施するとしていた。
この条約の採択をきっかけに、日
本が培ってきた環境技術をさらに生
かし、国際社会と共に水銀被害のな
い世界を目指していく。



水俣市内で献花式に参列した外交団（環境省提供）

国際会議

「水銀条約外交会議」 経験を共有し 水銀被害のない世界へ

高度経済成長期に日本の多くの都市が直面
した公害。その一つ、水俣病を引き起こした
水銀汚染を防止する条約の制定に向けて、
10月に外交会議が開かれた。

途上国の環境問題対策

今後3年間で総額20億ドルのODAを実施

大気汚染対策

高効率の石炭火力発電所の建設、排煙脱硫装置
を備えた火力発電設備の設置など

水質汚濁対策

下水道施設の整備・改築、地方自治体の污水管
理計画の策定支援など

廃棄物処理

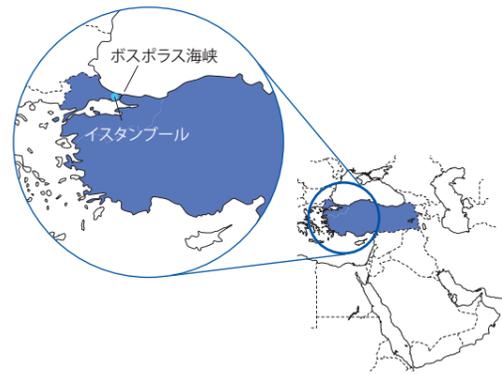
廃棄物焼却施設の建設、廃棄物による発電・リ
サイクル事業の推進、地方自治体の廃棄物管理
計画の策定支援など



水銀条約の署名式に臨む岸田外務大臣



開通式のテープカットに参加する安倍総理（右から3人目）



ボ スポラス海峡を挟んで、アジ
アとヨーロッパをつなぐトル
コ最大の商業都市、イスタンブール。
10月29日、トルコ建国90周年の記念
日に合わせて、海峡下の海底トンネ
ルを通る地下鉄の開通式が行われた。
日本はこれまで合計1532億7
400万円の円借款と技術の提供を
通じて、この地下鉄の整備を支援し
てきた。式典には、トルコ側からア
ブドゥッラー・ギョル大統領やレジ
エップ・タイイップ・エルドアン首
相、日本側からは安倍晋三内閣総理
大臣や加藤勝信内閣官房副長官らが
出席。安倍総理は「両国には長年の
強い絆があり、この歴史的な事業に

「安倍総理のトルコ訪問」 日本の支援で 海峡横断地下鉄が開通

日本が協力できることは大きな喜
び」と表明した。式典後には「番別
車の先頭車両に乗り込み、海峡のア
ジア側にあるウスクダル駅から欧州
側のイエニカプ駅まで走行した。
ボスボラス海峡は潮流が速く、海
上交通も活発。そんな条件下、海
界最深となる約60メートルの海底に
沈埋トンネルを建設できたのは、日
本の高い技術力があつたからこそ。
地下鉄の開通により、これまでフェ
リーで約30分かかっていた海峡間の
移動時間が4分へと大きく短縮す
る。海峡に架かる橋の慢性的な交通
渋滞で深刻化していた大気汚染の改
善も期待されている。

ODA政策

Message from Viet Nam 「日本とベトナム、友好の年」



グエン・タン・ズン首相と
会談する安倍総理（内閣
広報室提供）

日本の協力により建設
されたバクサン省ダンタ
ン村小学校の新校舎



日本企業から贈られたノ
ートを手にする子どもたち

2 013年、日本とベトナムは、
外交関係が樹立されてから
40年を迎えました。この記念すべき
年の初めに、安倍晋三内閣総理大臣
はベトナムを訪問。これを皮切りに、
多くの記念行事が両国で開催さ
れ盛り上がっています。
また、日本がベトナムへの本格的
な政府開発援助（ODA）を再開し
てから20年がたちます。ベトナムに
対するトップドナーとして総額2
兆円を超える支援を行ってきた日
本。道路、橋、空港などの整備に日
本の高い技術が貢献し、その質の高さ
はベトナム国民に広く知られてい

ます。地方ではまだ貧しい地域も多
く、学校、医療施設、かんがい設備の
建設などの協力を続けています。
先日、ベトナムで活躍している日
本企業から、日本の協力で建設され
た学校で学ぶ生徒たちにノートな
どが贈られました。「校舎がきれい
になって、毎日一生懸命勉強してい
ます」と4年生のフォンさんは笑顔
で話してくれました。
ますます関係が深まる日本とベ
トナム。これからも大切なパートナ
ーとして、共に発展していけるよ
う、がんばっていききたいと思いま
す。

在ベトナム日本国大使館

木田泰光 二等書記官

現地からのメッセージは、ODAメールマガジン（www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/mail/）でご覧いただけます。